



## ＊ドライブ中の出会い＊

社会人になってから購入した愛車（日産ノート、愛称あり）とほぼ毎週末走り回っています。運転の腕はたいしたことはないですが、運転をすることがとても好きです。毎回、愛車に積んでいる紙地図をめくっては、気分にあわせてドライブを楽しんでいます。

新潟県の上越地方での勤務となった最初の週末、いたい自分がどのような地すべりの現場を受け持つことになるのか、どれくらい遠いところにあるのか、公道から見える範囲で確認したいと思い、管内図を見ながら愛車で向かうことにしました。国道・主要地方道を走っている間はウキウキが止まらなかったのですが、だんだん道が細くなり、人家もまばらになってきて、本当にこの道であっているのか・・・という焦りが出てきました。どうにか現場の近くまではたどり着くことはできましたが、（当時の私にとっては）こんな山奥まで行かないといけなのか、と不安になると同時に、これほどの山奥でも事業を実施しているからこそ、地すべりだらけの場所であっても、多少の降雨があったとしても、人々が安心して生活できるのだなと感じたことを思い出します。（なお、帰路は急坂をうまく登ることができず、近所の住民の方に心配されましたが、無事に帰り着くことができました。）

東京勤務となり、愛車はしばらく妹の家に預けていました。とはいえ、やはり運転がしたくなり、夏休みにレンタカーで東北地方に向かうことにしました。目的は仙台でプロ野球を観戦することでしたが、せっかく行くのだから、ということで、岩手・宮城内陸地震で被災した箇所をルートに組み込み、河道閉塞が発生した箇所や震災遺構となっている旧祭時大橋を一観光客として見に行きました。大きな国道沿いということもあり、一般の観光客の目にとまりやすい場所に説明看板（+駐車場）が設けられていて、被災直後からの復旧の様子を知ることができました。

砂防の現場はどうしても山奥のものが多く、広報などでアピールするのに苦労することが多いですが、アクセスが比較的容易な場所にはそのような広報の工夫をすることで、地元の方以外にも砂防のことを知ってもらう機会を設けられるように思っています。

さて、紀伊半島での勤務が始まった1年半ほど前、やっと愛車との日々が戻ってきました。まずは周辺の国

道を走り回ってみたい。いま携わっている現場は国道168号沿いが多く、仕事で何度も行っていることもあって、愛車で走っていてもすぐ、砂防施設を見つけることができます。どの道走っていても非常に山深く道も細かったりガタガタだったりして万全とはいいがたく、こ



写真-1 下北山村での1枚

んなところに集落が？という某番組を彷彿とさせるような瞬間の連続ですが、そのような山間の集落到住む人たちの生活を守り維持してきた砂防施設をはじめとするインフラ施設の偉大さと、苦勞して施設を整備してきた先人たちの熱意に自然と頭が下がります。

少し足を伸ばして那智勝浦町まで行ってみると、那智の大滝に行くまでの県道沿いに数多くの砂防施設が整備されています。紀伊半島大水害で発生した土石流災害による甚大な被害を受けて、たくさんの施設が整備された経緯があります。どの砂防施設もコンクリートがむき出しになることなく、世界遺産の地域にふさわしい景色を保っています。大災害があった場所ですが、施設が整備されることで、人々の安全・安心な生活と観光とが両立できていることを、砂防施設の整備状況と観光客の多さを確認するたび実感しています。

砂防堰堤だけでなく、急傾斜地崩壊防止、地すべり防止、雪崩など様々な対策の施設、新しく整備されている砂防施設の工事看板・・・、道を走っていると砂防がらみの景色に思わぬところで出会います。よそ見のしすぎは当然危ないですが、自分自身の携わる世界とふとした瞬間に接すると、ほっとすると同時に直接携わっていなくともどこか誇らしく感じる、そんな日々を過ごしています。

さて、今週末は愛車とどこまで走りに行こうかな・・・。

（小杉 恵・国土交通省 近畿地方整備局  
紀伊山系砂防事務所 調査課長）